

**Description of Relevancy To**  
**The Present Patent Application**

Document No. in the ISR: No. 3

”JP 5-24557 U (Toppan Printing Co., Ltd) ”

30 March, 1993 (30.03.93)

<Comments>

Document 3 discloses a structure of a container to put the seasoning. An opening is formed in the container, and the size of the opening changes with a rotating shutter.

\* \* \* \* \*

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **公開実用新案公報 (U)**

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-24557

(43)公開日 平成5年(1993)3月30日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

B 6 5 D 47/20

識別記号 庁内整理番号

Z 2330-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全3頁)

(21)出願番号

実願平3-34951

(22)出願日

平成3年(1991)5月17日

(71)出願人 000003193

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1丁目5番1号

(72)考案者 林田 徳生

東京都台東区台東一丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

(72)考案者 宮西 収

東京都台東区台東一丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

(72)考案者 辻 直子

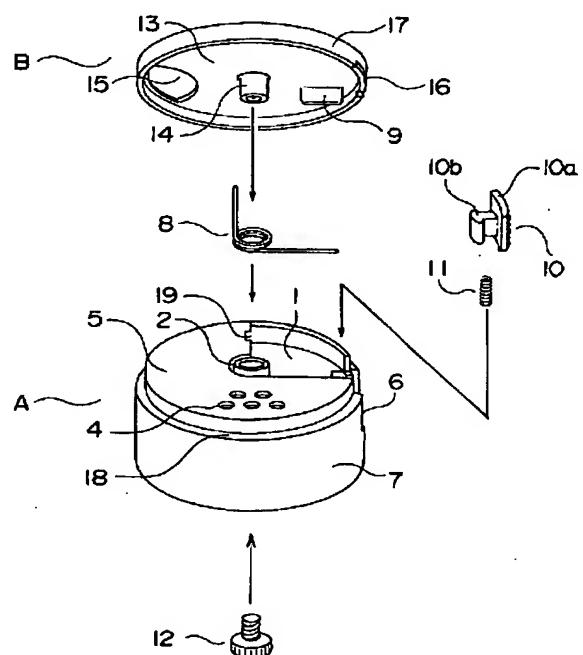
東京都台東区台東一丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

(54)【考案の名称】 回転蓋付き振出キップ

(57)【要約】

【目的】粉末状の調味料等を入れる振出容器のキップに関するもので、特に回転蓋の回動により振出口の開閉をワンタッチで行うことができ、かつ開口状態や閉口状態を自力で維持できる振出キップを得ること。

【構成】キップ本体の頂壁に回転軸受部と摺動凹嵌領と振出口とを設け、側壁にはストッパー摺動溝を設け、回転蓋の天井壁に前記振出口に対応する開口部を穿設し、係止片と回転軸とを設け、周壁には前記ストッパー摺動溝に対応する切欠部を設け、前記摺動凹嵌領内に回転バネを嵌入し、この回転バネの一端を前記摺動凹嵌領の一側壁部に当接させ、他端は前記係止片に当接させ、前記ストッパー摺動溝に、上動したときにその上部が前記切欠部と係合するストッパーを上下動自在に取り付け、前記キップ本体の上に前記回転蓋を回動自在に装着して成る回転蓋付き振出キップ。



### 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】キャップ本体が頂壁から側壁を下方に向かって垂設して成り、この頂壁には回転軸受部と摺動凹嵌領と振出口とを設け、前記側壁にはストッパー摺動溝を設けており、回転蓋が天井壁から周壁を下方に向かって垂設して成り、この天井壁には前記振出口に対応する開口部を穿設し、係止片と回転軸とを下方に向かって設け、前記周壁には前記ストッパー摺動溝に対応する切欠部を設けており、

前記摺動凹嵌領内に回転バネを嵌入し、この回転バネの一端を前記摺動凹嵌領の一側壁部に当接させ、他端は前記係止片に当接させ、前記ストッパー摺動溝に、上動したときにその上部が前記切欠部と係合するストッパーを上下動自在に取り付け、前記キャップ本体の上に前記回転蓋を回動自在に装着して成ることを特徴とする回転蓋付き振出キャップ。

【請求項2】 キャップ本体が頂壁から側壁を下方に向かって垂設して成り、この頂壁には回転軸受部と摺動凹嵌領と振出口とを設け、前記側壁にはストッパー摺動溝を設けており、回転蓋が天井壁から周壁を下方に向かって垂設して成り、この天井壁には前記振出口に対応する開口部を穿設し、係止片と回転軸とを下方に向かって設けており、前記摺動凹嵌領内に回転バネを嵌入し、この回転バネの一端を前記摺動凹嵌領の一側壁部に当接させ、他端は前記係止片に当接させ、前記ストッパー摺動溝に、表面板に支柱を連設してなるストッパーを、上動したときにこの支柱が前記係止片と係合するように上下動自在に取り付け、かつ前記ストッパーの、前記係止片に接する部分を斜面状に形成し、前記係止片の、前記支柱に接する部分を斜面状に形成し、前記キャップ本体の上に前記回転蓋を回動自在に装着して成ることを特徴とする回転蓋付き振出キャップ。

### 【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の第一実施例の構成を示す構成図である。

【図2】(A)第一実施例の振出口の開口状態を正面から見た説明図である。(B)第一実施例の振出口の開口状態を正面から見た説明図である。

【図3】第一実施例の閉口状態を示すa-a'概略断面図である。

【図4】第一実施例のキャップを容器に装着した状態の斜視図である。

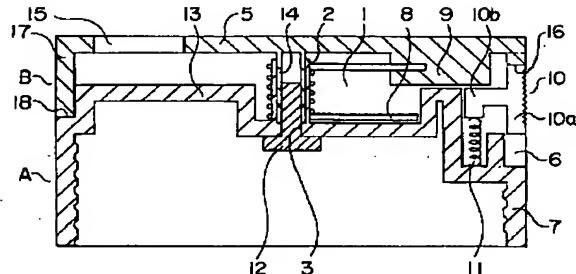
【図5】第二実施例の閉口状態を示す概略断面図である。

【図6】第二実施例の回転蓋の回転時における係止片と  
ストップバーの動きを示す断面説明図である。

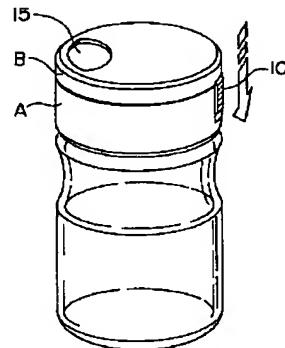
### 【符号の説明】

A	…	キャップ本体
B	…	回転蓋
1	…	摺動凹嵌領
2	…	回転軸受部
3	…	軸孔
4	…	振出口
5	…	頂壁
20	6	… ストッパー摺動溝
	7	… 側壁
	8	… 回転バネ
	9	… 係止片
	10	… ストッパー
	10 a	… 表面板
	10 b	… 支柱
	11	… コイルバネ
	12	… 固定螺子
	13	… 天井壁
30	14	… 回転軸
	15	… 開口部
	16	… 切欠部
	17	… 周壁
	18	… 載置部
	19	… 係止片嵌入部

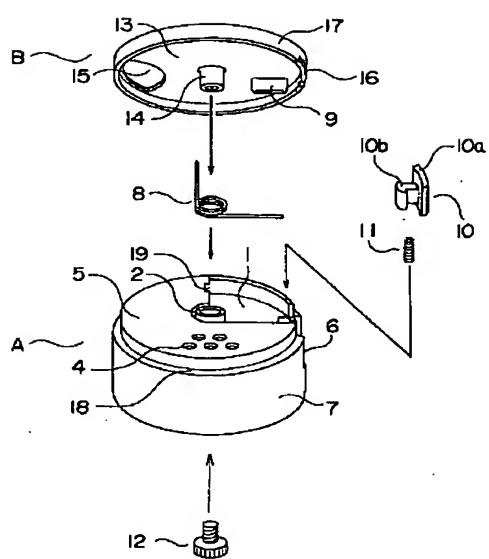
【図3】



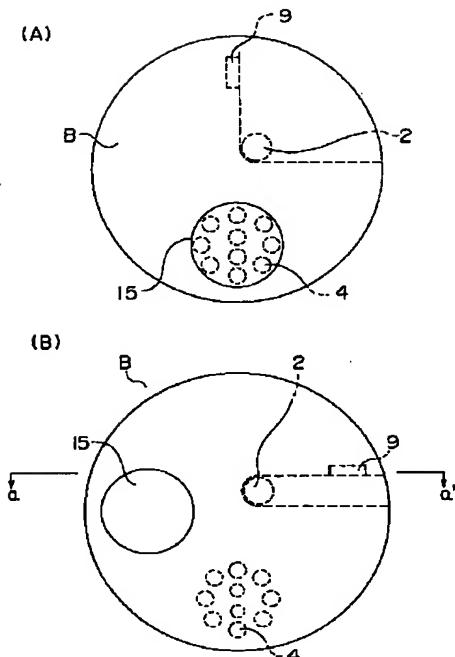
[図4]



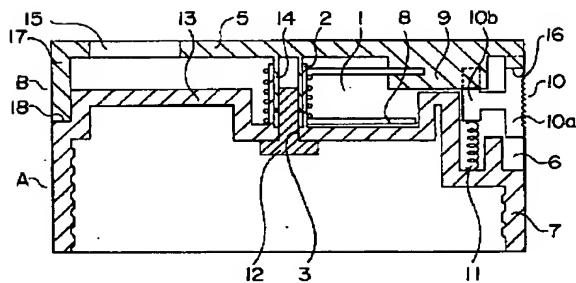
【図1】



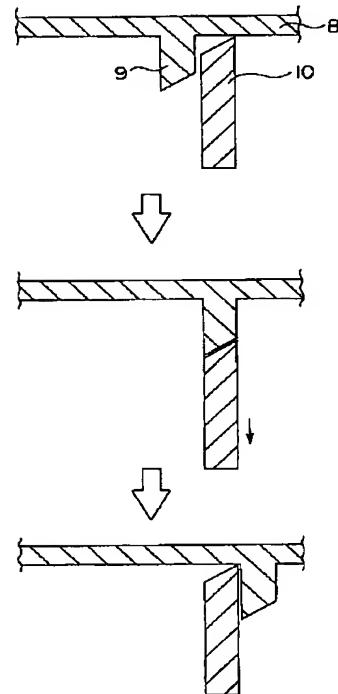
【図2】



【図5】



【図6】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、粉末または粒状の調味料や香辛料をいれる振出容器に関するもので、特に回転蓋の回転により振出口の開閉をワンタッチで行うことのできる振出キャップである。

**【0002】****【従来の技術】**

従来この種の容器で振出口の開閉を蓋の回転によって行うものとしては、振出口を有するキャップ本体の上に振出口に対応する開口部を設けた回動自在なオーバーキャップを装着し、このオーバーキャップを手動により回転させて振出口と開口部との位置を合わせることにより振出口を開口するもの（実開昭63-128953号参照）が一般的である。

また、蓋の回転をワンタッチで行うことのできるものとし、容器に面白味と実用性を持たせたものとしては、振出口を有するキャップ本体の上に振出口に対応する開口部を有しあつ回転可能な蓋を装着し、手動により蓋を回転軸を中心にして回転させ開口し、板バネの反発力をを利用して反転させ閉口するもの（実開昭58-53063号参照）等が知られている。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

しかしこのような容器では、ワンタッチとはいっても後者の容器においては振出口を開口状態で維持することができず、内容物を振り出す時はその蓋を手で押さえ続けなければならず、甚だ不便であった。そこで本考案はワンタッチで振出口を開閉させることができ、更に手を離しても開口状態あるいは閉口状態を自力で維持することができる振出キャップを提供することを課題とする。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

本考案は上記課題に鑑み、次のような回転蓋付き振出キャップを提供する。

即ち、キャップ本体が頂壁から側壁を下方に向かって垂設して成り、この頂壁

には回転軸受部と摺動凹嵌領と振出口とを設け、前記側壁にはストッパー摺動溝を設けており、回転蓋が天井壁から周壁を下方に向かって垂設して成り、この天井壁には前記振出口に対応する開口部を穿設し、係止片と回転軸とを下方に向かって設け、前記周壁には前記ストッパー摺動溝に対応する切欠部を設けており、前記摺動凹嵌領内に回転バネを嵌入し、この回転バネの一端を前記摺動凹嵌領の一側壁部に当接させ、他端は前記係止片に当接させ、前記ストッパー摺動溝に、上動したときにその上部が前記切欠部と係合するストッパーを上下動自在に取り付け、前記キャップ本体の上に前記回転蓋を回動自在に装着して成る回転蓋付き振出キャップである。

#### 【0005】

また、キャップ本体が頂壁から側壁を下方に向かって垂設して成り、この頂壁には回転軸受部と摺動凹嵌領と振出口とを設け、前記側壁にはストッパー摺動溝を設けており、回転蓋が天井壁から周壁を下方に向かって垂設して成り、この天井壁には前記振出口に対応する開口部を穿設し、係止片と回転軸とを下方に向かって設けており、前記摺動凹嵌領内に回転バネを嵌入し、この回転バネの一端を前記摺動凹嵌領の一側壁部に当接させ、他端は前記係止片に当接させ、前記ストッパー摺動溝に、表面板に支柱を連設してなるストッパーを、上動したときにこの支柱が前記係止片と係合するように上下動自在に取り付け、かつ前記ストッパーの、前記係止片に接する部分を斜面状に形成し、前記係止片の、前記支柱に接する部分を斜面状に形成し、前記キャップ本体の上に前記回転蓋を回動自在に装着して成る回転蓋付き振出キャップである。

#### 【0006】

##### 【作用】

請求項1の回転蓋付き振出キャップによれば、回転バネが係止片によって何ら力を受けていない状態にあるときに、振出口と開口部の位置が重なるように位置合わせをするときには、組立時に先ずキャップ本体に回転バネを嵌入しその一端を摺動凹嵌領の一側壁部に当接させ、他端を係止片に当接させて、次に回転バネの反発力に抗してこれを変形させる方向に回転蓋を回転させ、振出口閉口状態にないので、このような振出口閉口状態においてストッパーを下動させると、それ

まで変形された回転バネの復元力によって回動しようとする回転蓋を支えていた切欠部とストッパーとの係合が解除されて、この回転バネの復元力により回転バネが係止片を押して今度は反対方向に回転蓋が回転し、回転バネが完全に元の形に戻った地点で回転がとまり、振出口と開口部との位置が重なって振出口開口状態となる。このときストッパーから手を離すとストッパーは自然に上動し、回転蓋に当接する。次に、振出口開口状態において回転バネの反発力に抗しながら回転蓋を手動により回転させ、回転蓋の切欠部がストッパーと係合する位置にくるとストッパーが切欠部の高さの分だけ更に上動して前記切欠部に嵌合し、これにより回転蓋を閉口状態で停止させる。

#### 【0007】

請求項2の回転蓋付き振出カップによれば、回転バネが係止片によって何ら力を受けていない状態にあるときに、振出口と開口部の位置が重なるように位置合わせをするときには、組立時に先ずカップ本体に回転バネを嵌入しその一端を摺動凹嵌領の一側壁部に当接させ、他端を係止片に当接させて、次に回転バネの反発力に抗してこれを変形させる方向に回転蓋を回転させ、振出口閉口状態にするので、このような振出口閉口状態においてストッパーを下動させると、それまで変形された回転バネの復元力を押さえていたストッパーと係止片の係合が解除されて、この回転バネの復元力により回転バネが係止片を押して今度は反対方向に回転蓋が回転し、回転バネが完全に元の形に戻った地点で回転がとまり、振出口と開口部との位置が重なって振出口開口状態となる。

次に、振出口開口状態において回転バネの反発力に抗しながら回転蓋を手動により回転させると、係止片に押されて回転バネが徐々に変形し、係止片がストッパーの支柱に当接する位置にくると、支柱と係止片の互いに当接する面が斜面状になっているので、係止片が支柱を押し下げるようにして支柱を乗り越え、係止片が乗り越えた後、支柱（ストッパー）は再び自動的に上動して、回転バネを変形させている係止片を戻らないように係止し、回転蓋を閉口状態で停止させる。

#### 【0008】

##### 【実施例】

以下本考案の実施例を図面を用いて詳細に説明する。図1は第一実施例の回転

蓋付き振出キャップの構成を示す図であり、キャップ本体Aに回転バネを嵌入し、ストッパーを取り付け、回転蓋Bを回動自在に取り付けて構成されている。

なお回転バネ8はその原形が扇状に開いたものを用いることとし、回転バネ8が係止片9によって何ら力を受けていない状態にあるときに、振出口4と開口部15の位置が重なるように位置合わせをするものとする。

#### 【0009】

先ずキャップ本体Aは、頂壁5から、ストッパー摺動溝6を有しつつ上端には全周に渡って載置部18を有する側壁7を下方に向かって垂設して形成されている。

そしてこの頂壁5には複数の孔からなる振出口4を穿設し、摺動凹嵌領1を凹設し、この摺動凹嵌領1の一端部に係止片嵌入部19を設け、前記摺動凹嵌領1内でかつキャップ本体Aのほぼ中央部にあたる位置に中空円筒状の回転軸受部2を設け、この回転軸受部2の下に軸孔3を開けている。

#### 【0010】

前記回転軸受部2は必ずしも摺動凹嵌領1内に設ける必要はないが、本実施例のようにすれば回転蓋の回転軸としての機能と、後に述べる回転バネの中心部を固定する機能とを兼ね備えることができるので、本考案のような狭い空間においては特に効率的である。

#### 【0011】

また、係止片嵌入部19を設けたので、本考案を組み立てるときに、原形が扇状にひらいた回転バネを摺動凹嵌領1に嵌入した後で回転蓋をセットする際に、回転バネに何ら力をかけることなく楽にセットすることができる。

#### 【0012】

そして回転バネ8は一本のコイルを巻いてなるもので、先端部と後端部は直線状で、円を描くように巻かれた中心部を介して、断面でみると平行になるよう巻かれており、かつその原形は正面からみると先端部と後端部との角度が扇状に開いたもので、先端部あるいは後端部に力を加えるとこの開きが縮まってU字状に変形するバネを用いている。

そしてこの回転バネ8が、その中心部が前記摺動凹嵌領1内の回転軸受部2の

外周を囲むようにして嵌入され、キャップ本体側の一端が前記摺動回嵌領1の一端部に当接し、回転蓋側の一端が係止片9に当接し係止されている。

【0013】

またこの回転バネ8は、原形がU字状に閉じているものを用いることも可能である。この場合には振出口と開口部の相対位置をかえるか、もしくは係止片9の位置をかえれば本実施例と同じようにストッパーの押し下げ操作により開口し、回転蓋の回転により閉口することができる。

【0014】

ストッパー10は、表面板10aに支柱10bを連設したもので、この支柱10bの下に収縮自在なコイルバネ11を介在させて上下動可能にし、上動するとこの表面板10aの上部が回転蓋の切欠部に嵌合する。このストッパーの表面板10aと切欠部16との嵌合により振出口開口状態において回転蓋の回動を止めることができる。

【0015】

次に回転蓋Bは、天井壁13の前記回転軸受部2に対応する位置に中空円筒状の回転軸14を下方に向かって突設し、また天井壁13の中心から一端に向かう線上に下方に向かって係止片9を突設し、前記振出口4に対応する開口部15を穿設し、この天井壁13の周縁に前記ストッパー摺動溝6に対応する切欠部16を設けた周壁17を垂設して形成されている。

【0016】

なお、本実施例においてはキャップ本体Aの載置部18の上に回転蓋Bを載せ、回転軸14を中空円筒状の回転軸受部2に嵌め込み、キャップ本体の裏側、軸孔3から固定螺子12を差し込んで回転軸14の内側と固定螺子12の外側を螺合させることにより回転蓋Bとキャップ本体Aとを回動自在に取り付けているが、取り付け手段はこれに限定されるものではなく、例えば回転軸14は回転軸受部2を通った後にその下で自動的に係止される構造としてもよい。

【0017】

このようにして得た回転蓋付き振出キャップは、回転バネ8が係止片9によつて何ら力を受けていない状態にあるときに、振出口4と開口部15の位置が重なるように位置合わせをしているので、組立時に先ずキャップ本体Aに回転バネ8を

嵌入しその一端を摺動凹嵌領1の一側壁部に当接させ、他端を係止片9に当接させて、次に回転バネ8の反発力に抗してこれを変形させる方向に回転蓋Bを回転させ、振出口閉口状態にする。

#### 【0018】

このような振出口閉口状態においてストッパー10を下動させると、それまで変形された回転バネ8の復元力によって回動しようとする回転蓋を支えていた切欠部とストッパーの係合が解除されて、この回転バネ8の復元力により、今度は反対方向に回転蓋Bが回転し、回転バネ8が完全に元の形に戻った地点で回転がとまり、振出口4と開口部15の位置が重なって振出口開口状態となる（図2A）。

#### 【0019】

次に、振出口開口状態において回転バネ8の反発力に抗しながら回転蓋Bを手動により回転させ、回転蓋の切欠部16がストッパー10と係合する位置にくるとストッパー10が切欠部16の高さの分だけ更に上動してストッパーの表面板10aが前記切欠部16に嵌合し、これにより回転蓋Bを閉口状態で停止させる（図2B）。

#### 【0020】

また、第二実施例として、回転蓋Bとキャップ本体Aとの係合手段が切欠部とストッパーの係合によるものでなく、係止片9とストッパー10との係合によるものを以下に述べる（図5参照）。

キャップ本体Aの構成は上記第一実施例と同一であり（説明を省略する）、回転蓋Bの構成は、切欠部は必ずしも必要ないが他の部分は上記実施例と同一であり（説明を省略する）、回転バネ8も上記第一実施例と同一であり（説明を省略する）、その特徴部分はストッパー10の形状にある。

#### 【0021】

ストッパー10は表面板10aに支柱10bを連設した断面略H状のもので、この支柱10bの下に収縮自在なコイルバネ11を介在させて上下動可能にし、上動するとこの支柱10bの上部が係止片9に係合するようにストッパー摺動溝6に嵌入されている。

また、図6に示すように、ストッパー10の支柱10bと係止片9はそれぞれが互いに当接する面が斜面状に形成されており、回転蓋Bが回転したときにお互いが

押し合うような形で自然に係止片9が支柱10bを乗り越えるようになっているので、振出口開口状態において回転蓋を手動により回転バネ8の反発力に抗して回転させると、係止片9が回転バネ8を押して徐々に変形させ、係止片9が支柱10bに当接する位置にくると、お互いに当接する面が斜面状になっているので、係止片9が支柱10bを押し下げるようにして支柱10bを乗り越え、係止片9が乗り越えた後、支柱10b（ストッパー）は再び自動的に上動して、回転バネ8を変形させている係止片9をそのまま戻らないように係止し、回転蓋Bを開口状態で停止させることができる。

#### 【0022】

このようにして得た回転蓋付き振出キップは、回転バネ8が係止片9によって何ら力を受けていない状態にあるときに、振出口4と開口部15の位置が重なるように位置合わせをしているので、組立時に先ずキップ本体Aに回転バネ8を嵌入しその一端を摺動凹嵌領1の一側壁部に当接させ、他端を係止片9に当接させて、次に回転バネ8の反発力に抗してこれを変形させる方向に回転蓋Bを回転させ、振出口開口状態にする。

#### 【0023】

このような振出口開口状態においてストッパー10の表面板10aを手動により下動させると、それまで変形された回転バネ8の復元力を押さえていた支柱10bと係止片9の係合が解除されて、この回転バネ8の復元力により、今度は反対方向に回転蓋Bが回転し、回転バネ8が完全に元の形に戻った地点で回転がとまり、振出口4と開口部15の位置が重なって振出口開口状態となる。

#### 【0024】

次に、振出口開口状態において回転バネ8の反発力に抗しながら回転蓋Bを手動により回転させると、係止片9に押されて回転バネ8が徐々に変形し、係止片9がストッパー10の支柱10bに当たる位置にくると、支柱10bと係止片9の互いに当接する面が斜面状になっているので、係止片9が支柱10bを押し下げるようにして支柱10bを乗り越え、係止片9が乗り越えた後、支柱10bは再び自動的に上動して回転バネを変形させている係止片9が戻らないように係止し、同時にストッパー10の表面板10aが回転蓋Bの切欠部16に嵌合し回転蓋Bは開口状態で停

止する。この切欠部16によって回転蓋Bの停止状態はより強固なものとなる。

#### 【0025】

なお、上記2つの実施例とは逆に、回転バネが係止片によって何ら力を受けていない状態にあるときに、振出口と開口部の位置が重ならないように位置合わせすることも考えられる。これは任意に選択できる。

#### 【0026】

##### 【考案の効果】

本考案は以上述べたような構成でできているので、ストップバーの押し下げ操作と回転蓋の回転操作により振出口を開閉するという従来にない開閉機構でワンタッチで振出口の開閉を行うことができ、また手で押さえていなくても開口状態・閉口状態を保つことができるので多量を振り出したいとき等は特に使いやすいという効果を生ずる。

更にヒンジ部を介して開閉する蓋ではなく回転式の蓋を設けたのでデザイン性に優れている。